

アンケート期間：2026/3/6-2026/3/14	Growupアカデミー		
質問	評価結果	工夫している点	課題や改善が必要な点
利用定員が発達支援室等のスペースとの関係で適切であるか。	はい6	・個別のサポートが必要な際は、部屋を分けて使用している。 ・整理整頓	・土曜日など、利用者数が多いときには席が足りないこともあるため改善が必要と感じる時もある。 ・雨漏り ・男性職員の常時配置の徹底
利用定員や子どもの状態等に対して、職員の配置数は適切であるか。	はい6	・状況に応じて動態を管理すること	
生活空間は、ことによりわかりやすく構造化された環境になっているか。また、事業所の設備等は、障害の特性に応じ、バリアフリー化や情報伝達等、環境上の配慮が適切に行われているか。	はい6	・部屋ごとに名前を付けて明確化している。導線の確保 ・視覚を無くす	・ペーパーレスに伴い、子どもたちに紙だけでなく、伝え方の工夫が必要。
必要に応じて、子どもが個別の部屋や場所を使用することが認められる環境になっているか。	はい6	・必要に応じて部屋の確保を促す ・複数の部屋がある	
業務改善を進めるためのPDCAサイクル(目標設定と振り返り)に、広く職員が参加しているか。	はい6	・PDCAとはについて研修を受けている ・ミーティングに参加 ・週に1回、職員ミーティングを行っている	・行動パターンまで落とし込むこと
保護者向け評価表により、保護者等の意向等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	はい5 / いいえ1	・毎週行なうMT等にて共有している	
職員の意見を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	はい6	・毎週、MTにて共有すること	・今以上に発言ができる環境作り
第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげているか。	いいえ5 / はい1	・作成資料から日々の支援において漏れなく行えるように確認作業をダブルチェックに ・研修参加を徹底するよう動態管理すること ・積極的に参加する	・評価結果を見る化していつでも振り返れるようにすること ・OFF-JTの重要性を伝えていくこと
職員の資質の向上を図るために、研修を受講する機会や法人内で研修を開催する機会が確保されているか。	はい6		
適切に支援プログラムが作成、公表されているか。	はい6		
個々の子どもに対してアセスメントを適切に行い、ことごとく保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、放課後等デイサービス計画を作成しているか。	はい6	・見発だけでなく全員でMT等にて共有すること	
放課後等デイサービス計画を作成する際には、児童発達支援管理責任者だけでなく、子どもの支援に関わる職員が共通理解の下で、ことごとく最善の利益を考慮した検討が行われているか。	はい6	・見発だけでなく全員でMT等にて共有すること	
放課後等デイサービス計画が職員間に共有され、計画に沿った支援が行われているか。	はい6	・目標設定をいつでも見れるように作成&掲示	
子どもの適応行動の状況を、標準化されたツールを用いたフォーマルなアセスメントや、日々の行動観察なども含むインフォーマルなアセスメントを使用する等により確認しているか。	はい6	・毎月子供たちと面談をして独自のアセスメントをしている	
放課後等デイサービス計画には、放課後等デイサービスガイドラインの「放課後等デイサービスの提供すべき支援」の「本人支援」、「家族支援」、「移行支援」及び「地域支援・地域連携」のねらい及び支援内容も踏まえるが、子どもの支援に必要な項目が適切に設定され、その上で、具体的な支援内容が設定されているか。	はい6		
活動プログラムの立案をチームで行っているか。	はい6	・ミーティング共有 ・職員ミーティングで共有	
活動プログラムが固定化しないよう工夫しているか。	はい6	・年間スケジュールを設定する事で俯瞰的にみて作成	
子どもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせ放課後等デイサービス計画を作成し、支援が行われているか。	はい6	・平日と土曜日の支援は個別療育と集団療育の目的を覚えてメリハリを付けている	
支援開始前には職員間で必ず打合せを行い、その日行われる支援の内容や役割分担について確認し、チームで連携して支援を行っているか。	はい5 / いいえ1	・朝礼の徹底 1日のやることを共有 ・グループLINEで共有する	
支援終了後には、職員間で必ず打合せを行い、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点を共有しているか。	はい3 / いいえ3	・皆が集まって話せるように時間を管理 ・書面で全員に共有している	・来ていて時とできていない時がある。 ・書面での共有のみになっている
日々の支援に関して記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげているか。	はい6	・デジタルツールにて管理	
定期的にモニタリングを行い、放課後等デイサービス計画の見直しの必要性を判断し、適切な見直しを行っているか。	はい6		
放課後等デイサービスガイドラインの「4つの基本活動」を複数組み合わせ支援を行っているか。	はい6		
子どもが自己選択できるような支援の工夫がされている等、自己決定をする力を育てるための支援を行っているか。	はい6		
障害児相談支援事業所のサービス担当者会議や関係機関との会議に、そのことごとく状況をよく理解した者が参加しているか。	はい6		
地域の保健、医療(主治医や協力医療機関等)、障害福祉、保育、教育等の関係機関と連携して支援を行う体制を整えているか。	はい6		
学校との情報共有(年間計画・行事予定等の交換、ことごとく下校時刻の確認等)、連絡調整(送迎時の対応、トラブル発生時の連絡)を適切に行っているか。	はい6		
就学前に利用していた保育所や幼稚園、認定こども園、児童発達支援事業所等との間で情報共有と相互理解に努めているか。	いいえ6	・該当利用者がいないため	・該当利用者がいない
学校を卒業し、放課後等デイサービスから障害福祉サービス事業所へ移行する場合、それまでの支援内容等の情報を提供する等しているか。	はい6	・相談支援専門員と情報共有している	・全てに対応できていない為、取り組みの工夫が必要。
地域の児童発達支援センターとの連携を図り、必要等に応じてスーパーバイズや助言や研修を受ける機会を設けているか。	はい4 / いいえ2		・積極的には取り組めていない
放課後児童クラブや児童館との交流や、地域の他のことごとく活動する機会があるか。	いいえ5 / はい1	・子ども食堂を通じて関わったり、イベントに参加している	
(自立支援)協議会等へ積極的に参加しているか。	はい5 / いいえ1		
日頃から子どもの状況を保護者と伝え合い、ことごとく発達の状況や課題について共通理解を持っているか。	はい6	・交流会を企画して取り組んでいる	
家族の対応力の向上を図る観点から、家族に対して家族支援プログラム(ペアレント・トレーニング等)や家族等の参加できる研修の機会や情報提供等を行っているか。	はい6	・寺子屋や親子イベント等にて取り組んでいる。	
運営規程、支援プログラム、利用者負担等について丁寧な説明を行っているか。	はい6		
放課後等デイサービス提供を作成する際には、子どもや保護者の意思の尊重、ことごとく最善の利益の優先考慮の観点も踏まえて、子どもや家族の意向を確認する機会を設けているか。	はい6		
「放課後等デイサービス計画」を示しながら支援内容の説明を行い、保護者から放課後等デイサービス計画の同意を得ているか。	はい6		
家族等からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、面談や必要な助言と支援を行っているか。	はい6		
父母の会の活動を支援することや、保護者会等を開催する等により、保護者同士で交流する機会を設ける等の支援をしているか。また、きょうだい同士で交流する機会を設ける等の支援をしているか。	はい6		・親子イベント等の開催
子どもや保護者からの苦情について、対応の体制を整備するとともに、子どもや保護者に周知し、苦情があった場合に迅速かつ適切に対応しているか。	はい6		
定期的な通信等を発行することや、HPやSNS等を活用することにより、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報を子どもや保護者に対して発信しているか。	はい6		
個人情報の取扱いに十分留意しているか。	はい6		
障害のある子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしているか。	はい6		
事業所の行事に地域住民を招待する等、地域に開かれた事業運営を図っているか。	いいえ5 / はい1	・会社で企画されている	
事故防止マニュアル、緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等を策定し、職員や家族等に周知するとともに、発生を想定した訓練を実施しているか。	はい6		
業務継続計画(BCP)を策定するとともに、非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っているか。	はい6	・年間スケジュールにて策定し、活動に取り組んで行っている	
事前に、服薬や予防接種、てんかん発作等のことごとく状態を確認しているか。	はい6		
食物アレルギーのあることごとくについて、医師の指示書に基づく対応がされているか。	はい5 / いいえ1		
安全計画を作成し、安全管理に必要な研修や訓練、その他必要な措置を講じる等、安全管理が十分された中で支援が行われているか。	はい6		
ことごとく安全確保に関して、家族等との連携が図られるよう、安全計画に基づく取組内容について、家族等へ周知しているか。	はい6		
ヒヤリハットを事業所内で共有し、再発防止に向けた方策について検討しているか。	はい6		
虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしているか。	はい6		
どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、子どもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、放課後等デイサービス計画に記載しているか。	はい6		

公表 事業所における自己評価総括表			
○事業所名	Growupアカデミー		
○保護者評価実施期間	2026/3/6-2026/3/14		
○保護者評価有効回答数	25		
○従業者評価実施期間	2026/3/6-2026/3/14		
○従業者評価有効回答数	6		
○事業者向け自己評価表作成日	2026/3/17		
○ 分析結果			
	事業所の強み(※)だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	自己理解・自己決定が身に着く 感情のコントロールの仕方を身につける	個別療育と集団療育の活用、 月一回の面談で課題を見つめ、支援にてPDCAを回している。	施設内で完結するのではなく、地域交流の機会を増やすこと。
2	「社会性」「生きる力」を醸成しながら 高等学校卒業を目指す	1で記載の活動だけではなく学習サポートを行うこと。見通しを持てるようにスケジュールから振り返り、改善までをサポートする事。	レポートの進捗状況の細やかな管理。小中学生に対して、高校を見据えた学習サポート。
3	就労について福祉の専門員がサポート	就労支援を通して、将来の選択肢を増やしていくこと。今の自分の立ち位置を理解できるよう、見学、体験活動、外部講師のピア講話を行う。	外部連携の更なる強化。 関係機関との連携強化。
	事業所の弱み(※)だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	欠席数が多いこと	不登校生や精神障がいの方が多く在籍している為。	子供たちが負担なく出席できるような環境整備。様々な観点から取り組んでいく。
2	個別療育の為、職員と利用者の距離感に差が出る	1対1の関わりが必要な為、その回数が多くなると閉鎖的な関わりが生まれてしまう。	職員が意識して、関わる時間を平等に近い形に持っていき、距離感が近い、遠いという事象が起きないようにすること。
3	クールダウンができる環境の不足	間取り上、個室を多く作ることが不可能な為。	パーティションの有効活用をして、他の視線を遮断する方法を積極的に取り入れていく。